



ツイ恋

(上)

羽村びおら

☆一 お兄さまは...どうして？

彼はどうして、私の気持ちを受け止めてくれたのだろう、と不思議に思うことがある。

...そういうことが嫌いな、堅物っぽいところが...

いえ、一見そう見えるけど、

少年のように純粋な気持ちで恋愛が好き、みたいな部分を押し殺してる、

みたいに見えてしまったのが、私にはたまらなく...

☆二 お兄様の...コンプレックスにつけこむ私。

私の目から見て...彼はとても素敵♪

身長もあり、背筋が伸びているので、とにかくスーツ姿が美しいのだ。

私より十才年上の四十五才なのだけれど、メタボとは無縁に見える

...なんて言うと、いや最近はそうでもないよ、なんて満更でもなさそう。

でも私は彼の弱点に気づき、つけこんでしまった、と思ってる。

☆三.お兄様は...三高。

バブルの頃に、理想の男性像を示すのに「三高」という言葉があった。

意味は「高学歴・高収入・高身長」。

ウケをねらって「お兄さまは三高ですね」って面と向かって言ったら、

「そんなの過去」って切り返された。

否定はしていない模様。

でも、独立後の厳しさを言いかけて、沈黙...

☆四.お兄様の・・・兄弟って？

...お兄様のことを、実は私はほとんど知らない。

家族構成...はくやしいけど、知っている。

奥さんがいて、子供さんがいて。

でも、兄弟の人数も、何番目なのかも知らない。

まあ、面倒見が良くて暖かいお人柄なので、

にぎやかで人が集まる家の長男だったのかな、と勝手に想像している。

☆五 お兄様の...誕生日は？

「バカじゃないの、いいトシして」って言われそうなので、

訊くこともできない。

お兄さまの誕生日。

知ってどうする、とも思うし。星占いでもする？相性占いとか。

「プレゼント、くれるわけ？ 今欲しい万年筆があって、

いや、アウトドア用の...」

こんな風にからかわれるのも、嬉しい。

☆六 お兄様の...顔に書いてあった。

「そんなに僕にのぼせあがってどうするの？」

ってお兄さまの顔には書いてあった。

「でもね、まあ、百歩譲って...」

...？

「...カワイイ、って言ってあげる」

...お兄さまの瞳がそうささやいてくれていた。

...言葉では言ってもらったことはないけれど、私にはちゃんと、わかってる。

☆七 お兄様と...選挙。

...選挙が近いけれど...

お兄さまとは選挙について話したことがない。

...まあ、あんまり女性にそういう話題を振るのもね、

と思ったのかもしれないけれど...ちょっと古風な考えだけど。

というより、政治とか、宗教はちょっとデリケートな部分だからよねえ...

お兄さまとの距離を改めて実感。

☆八 お兄様と...故郷。

「親のこと、故郷のこと考えたら...」

ツライ、という言葉をお兄さまは呑み込んだように見えた。

私も同じようなことを日々感じている。

生まれ育った土地に住んでいる夫には...わからないだろう。

でも姑とは離れて住んでるのだし...

お兄さまに逃避しているばかりのような自分に...呆れる。

☆九 お兄様の...行き来。

お兄さまは、まあ、頻繁に故郷と東京を行き来している。

相続のこととか、いろいろあるらしい。

「今はね、兄弟の数も少ないから、親孝行だって大変だよ」

私もそれは実感している。

本当なら...お兄さまに夢中になる暇もエネルギーも、主婦には許されない...

って確かに、許されないわ。

☆十 お兄様と...夏の終わり。

エアコンには頼りっぱなし、夏バテでダウンするのを恐れながら夏を過ごす私なのに、

8月が終わってしまうのは寂しい。

汗で見苦しくないか気になる季節がようやく終わってくれるのが有難いはずなのに...

反面、余計なことを気にせず...

お兄さまを想える秋が嬉しい。あの美声が聞きたい。

☆十一 お兄様と...何もない？とは

...まあ、いわゆる「関係」はないけれど...

何か、そういうことを求めたくはないし、

また、そういうことを求めてこないお兄さまの紳士的なところ、

上品さにますます惹かれてしまうところもある...

って実はたしなめられているところも私にはあるかなあ。

たしなめるからにはお兄さまも...

☆十二 お兄様になら。

...夫とは仲はいいと思う。

とても気があったからこそ一緒になったのだし。

でも「お前はわかってない」と言わんばかりの事もあり...

というか、夫の親とも行き来が多いと、私一人が異分子だ。

あなた方の常識だけがすべてじゃない...

お兄さまの方がわかってくれそう...でもそれも幻想なの？

☆十三 お兄様と...家庭菜園

...流れで、今度の日曜の予定など訊いてしまった。

お兄さまはやや自慢げに

「...畑！ 子供には無農薬の野菜とか食べさせたいじゃん。」

...私は言葉を失うばかりだった。

...この父親らしいお姿も好き、なんだけど。でも...

「あはは、母親が畑やってたからさ、単なる郷愁かな...」

...優しい♪

☆十四 お兄様と...恋、ねえ...

私も既婚者だから、もちろん恋なんて求めていたわけじゃない。

突然、胸に落ちてきたような、そんな感じ。

恋に落ちた、というより、何だか、肩の上にずしりと落ちてきたような感じだった...

その相手が、お兄さまのような紳士的な方だったことが、

せめてもの救いだったと思っている。

☆十五 お兄様と...老舗デパート。

...この地区に唯一残った老舗デパートに、久しぶりに立ち寄ってみた。

...用事を済ませ、せめて雰囲気を楽しもうとエスカレーターに乗ると...

前の方には夫婦連れ...お兄さまだった。

お兄さまご夫婦だったのだ。

奥さんの方は、自分で言うのも何だけど私に似たタイプ...

次の階で、私は降りた。

☆十六 お兄様の...好み？

...お兄さまの奥さん、てあんな感じだったんだ...

ってちょっとびっくり。

もっと...何となく華やかな美人タイプを想像してたから。

...私の方が、目が大きくない？。

でも、お兄さまの好みのタイプってこんな感じなのねって、

妙に自分に自信が出た私。

...うん、私のこともきっと本当なのね♪

☆十七 お兄様を...忘れることも？

...夫と、夫の母と三人で箱根に小旅行へ行った。

お天気は良かったけれど、

神社の境内の木陰には涼やかな風が吹き抜ける、

さわやかな初秋の日だった...

旅行の間は、お兄さまのことは少しも思い出さなかった...

でも、東京に着いて、ビジネスマン達のスーツ姿を見たら...

すぐに思い出せた♪

☆一八 お兄様の...空の旅。

...お兄さまは仕事柄、出張も多い。

経費節約のために、やや不本意な空の便で妥協することもあるらしい。

「でもね、自分は乗らなくてもさ、見慣れたマークが無くなるのは寂しいよ」

そしてひとり言のようにつぶやいた。

「...最近は何でも移り変わりが早過ぎるよね...本当に。寂しいな...」

☆十九 お兄様と...軍服姿？

...お兄さまは上背があるうえに、背すじがぴしっと伸びている。

そして、その横顔の優雅さとあいまって、

昔の将校を思わせるような感じの上品さがある。

「そう？　じーさんは確かにそっち関係だったけどね...

でも昔の日本人はもっと背すじ伸びてたよね...

俺はダメだな...越えられないよ...」

☆二〇 お兄様に...誘われたい！

...お兄さまの、あの素敵な声で、「旅行でも行く？」なんて誘われてみたい。

でも、お忙しいのに運転していただくのもねえ...

でも、やっぱりすべてにおいてエスコートしてほしいのが私の本音...

もちろん、そんな、完全に最初から最後まで二人きりなんて無理とはわかっているけれど。

☆二十一 お兄様と...タバコ。

...白洲次郎のドラマ見ていてふと思ったんだけど...

お兄さまもタバコが似合う人なのだ。

煙草の量が多いところが気になるところではあるのだけど...

私も古い人間ということか、煙草を吸っている時のお兄さまの指先にまで見とれている...

家では夫に「副流煙がイヤ！」と言っているくせに。

☆二十二 お兄様と...暗号。

...お兄さまとの電話はまるで暗号だ...

というか、基本的に私達の連絡はほぼ、お兄さまからの仕事関係の電話とメール。

その時にちょっとした挨拶や近況報告をする。

「元気？」

「おかげさまで」...

何気ない言葉に思いを込め、思いを読み取らせていただく。

求め過ぎは禁物と思っている。

☆二十三 お兄様との...未来?

...お兄さまとは...ずっとこのままの状態がいいんじゃないかと思っではいる。

苦しいけれど。

でも、お兄さまの子供さんが結婚...なんてことになったら、多分、それとなく...ってことになるような気がする。

...でも、それまで、がんばろうと思う。

そんな日が一日でも遅いといいのだけど...

☆二十四 お兄様と...健康？

...お酒好きで知られる、まだ前途ある方が急に亡くなった。

そのことにも胸が痛くなったけれど、私は「毎晩飲まずにはいられない」お兄さまのことが心配になった。

でも最近は何音も通気味で、仕方なくお兄さまの会社の社長ブログでチェック...

また宴会らしい...

私の不眠症は続く...

☆二十五 お兄様と...ビール。

...「やめなきゃいけないのにやめられないことって結構あるよね」

...お兄さまに言われてドキっとした。

いや、他の人も交えて「健康一般の話をしていたのだけど。」

二人きりになってしまったので私は黙った。

「まあ、やめられない、ってことだよな、愚かだけど...美味しいな、このビール！」

☆二十六 お兄様を...引き止めるテク。

...お兄さまの存在を頼もしく思い、とても心惹かれているけれど、頼り過ぎずにいたいと思う。

女性も密かに支えてさしあげるくらいの気持ちがないと。

更には包み込む部分もなければ...と自分に言い聞かせている。

...いえ、少しでもお兄さまを引き止めるためのテクでもあるのだけれど。

☆二十七 私の...本音

...私には子供がいない。

子供好きな夫には済まないような気がしている。

その一方で私のような者が、人の親になんてならなくて良かったとも思っている。

でも最初からそう思っていたわけじゃない。

夫の子供はほしいだろう。

夫だけの、子供であれば。

...私が本当に愛せるのは誰なのだろう。

★二十八 お兄様とは...和泉式部のように？

高校の頃、平安時代の恋は「歌」から始まることも多いと教わった。

その頃は全然ピンと来なかったけれど、ネット全盛の今はすごく良くわかる...

ただ、お兄さまとのやりとりはメールばかりで、自筆がないのが寂しい。

でも、深い気持ちは伝わっている、とも思っている。

★二十九 お兄様の...商売の知恵。

流行モノは体験してみる、というのも実はお兄さまから授かった商売の知恵だ。

「...年末近いから、胃が痛いよ。流行のtwitterでもやってみる？」

お兄さまは私がもう始めているとは知らない...教えない♪

★三〇 お兄様と...twitter。

私にはあんなことを言ってたけど、お兄さまはtwitterはやっていない模様。

やるとしたら会社のホムペにリンクを貼ると思われ。

いえ、もしかすると私の知らないお兄さまのtwitterや姿があるかもだけど。

★三十一 お兄様には...やっぱり秘密。

「ユーザー名教えなさいよ」って、
お兄さまに言ってもらえない可能性だってあるわけで...

私は単にそれが怖いだけなのかもしれない。

でも逆に、訊かれても困るけど...

つのもる想いをtwitterにぶつけているから...

★三十二 たまには女友達と。

久し振りに、女友達の住むマンションに遊びに行った。

14階なので、ややごみごみした感じの街並みもいい眺めだ。

遠くの山も、夕焼けも、夜景までも楽しませてもらった。

でも、もう私は変われないかも、と思った...

★三十三 お兄様と...ホワイトクリスマス。

札幌には本当のホワイトクリスマスがある...

というか、とにかく街中が雪で、ホワイトイルミネーションとあいまって夜景が美しいのだ...

それを楽しんだ独身時代にお兄さまと出会っていたら...

いや、今で良かったのだ。きっと。

★三十四 お兄様と...家庭。

家庭を壊すなんてことなく...

もちろんお兄さまは思っていることだろう。

それがキレイ事だなんて私は思っていない。

大人の責任・人としての責任を全うしようとするその姿が好きだから、いいのだ。

★三十五 お兄様と...立冬。

立冬ねえ...

暦の上ではもう冬。

今年もあっという間に過ぎてゆく感じだ...

お兄さまとも取り立てて進展があったわけではなく...

でも、まだ会う機会があることに感謝している。

暖かさを胸に抱けている。

★三十六 お兄様と...新型インフルエンザ？

やり病ではかなく亡くなるなんて、古典か時代劇の中だけかと思っていた。

親達からも戦後は医学が進歩したから、なんて言われていたし。

なのに今回の新型インフル...

お兄さまはあまり心配していない。

★三十七 お兄様は...健康オタク？

...お兄さまはどうせ(笑)奥様に愛されているので、

ご夫婦で健康オタクっぽいので、

新型インフルエンザ対策なんてきっと万全なことだろう...

と思うのだけど。

でもお兄さまは出張も多い...

夜の街でどこかの美女から伝染ったら...許しませんよっ！

★三十八 お兄さまの...影。

自分の夢がすべてかなって、さらには幸せな人って、一体どのくらいいるのだろう。

お兄さまもなんとなく、夢破れて、的なるものを背負ってるっぽいしねえ。

でも、そんな影にシビれてもいる私...

お兄様は健康オタクな方なので...私の方が儂い。多分。

★三十九 お兄さまの...キス？

昼休みのお兄さまと電話で話していた。

一瞬、お兄さまの声がかぐもった後、「今ならキスしてあげてもいいよ。」

☆※●▲！？

でもすぐに私は打ちのめされた。

「さっき食べたイナゴが歯にひっかかってさ。嫌いでしょ？」

★四十 お兄様の...怪しい社長室？

おぞましいとは思ったけれど、私は恐る恐る、お兄さまにイナゴの出所を伺った。

「ん？若いのがどこから...ちょっと待って...あ、ごめんね、常務が書類取りに来ただけだっ
てば。」

怪しい、と言ったら、「どうして？」ですって。

わかってるクセに...

★四十一 お兄様へ...最低限のマナー。

よくあるように、お兄さまの奥様は、お兄さまの会社の役員をしているらしい。

公私共に良きパートナー、ということだ。

それだけに、私もチェックされないように気を遣っている...

せめてものマナーとさせていただきたい。

★四十二 お兄様と...年末の街角。

街で仕事帰りらしい、スーツ姿のお兄さまをみかけた。

疲れていらっしゃるようだったので、声は掛けなかった...

私も年末に向けて、仕事でヘコみ気味だったし...

いえ、憂いを帯びたお兄さまに元気をいただいた、と思っている。

★四十三.お兄様と...雨。

雨のたびに、あの夜のことを思い出す。

あの時...お兄さまと...あの場所まで歩いていたら...

私のその後は何か変わっていただろうか...

いや、今がいちばんの状況なのだろうと信じている...

いえ、何も変わらなかった。きっと。

★四十四 お兄様と...略奪愛？

略奪愛なんて言葉、昨日テレビを見るまで忘れていた。

絶対にありえないと思うから。

そこまで思われてはいないから...

子供さんを傷つけることが、私自身イヤなので...

甘い、とか言われてしまうのかもしれないけれど。

★四十五 お兄さまと...青年。

最近、かなり気になっている青年がいる...

でも、その理由は「お兄さまにプロポーションが似ているから」(笑)である。

輝くようにさわやかな青年なのに、最近はお疲れ気味に見える。

でも、がんばって熟成してほしい...お兄さまのように(笑)。

★四十六 お兄さまと...年末モード？

東京の街も年末モードに入ったような感じを受けた一日だった...

まだ十一月も半ば、なのに。

土曜日の活気のせいなのかな。

それともラジオから流れる音楽のせい？

でも、ジャズを聴きながら...

お兄さまとのんびり...したいなあ...

★四十七 お兄さまと...戦国武将？

ミーハーレベルなのだけど、最近また歴史系のドラマとかテレビにひかかれている...

お兄さまが戦国武将だったら...なんてアホアホな妄想も楽しい。

お兄さまに面差しの似た二枚目俳優さんを見るたび、ドキドキしている。

★四十八 お兄様と...ウイルスガードのスーツ？

今日、会合の席で、お兄さまは真新しいスーツ姿...

私は萌えまくり...

とろけまくり...

「これ、ウイルスからガードしてくれる高機能スーツなんだよねえ...」

...ガードはウイルスだけにして下さい♪

...って、私もウイルスなのですか？

★四十九 .お兄さまは...愛されてる？

高機能スーツの話は、会合の立食中だったので、他の方も巻き込んで話が盛り上がった。

お兄さまの知人男性の一言が、密かに私の心を突き刺す。

「...愛されてるねえ...」って。

...私の苦笑いは...

お兄さまにはどう映ったのかな。

★五〇 お兄様と...爆睡？

今日は仕事関係の講習会に行った。

他の参加者も、老若男女を問わず、やる気モード全開。

百人以上の熱気...でも、私を含め、疲れの色が隠せない人も...

スーツ姿の営業マンの中には撃沈して爆睡になっちゃう方も...

お兄さまも今頃、飛行機の中で？

★五十一 お兄さまからの...注意？

目を酷使しているせいで、体調が悪いのかと思っていた。

パソコンに向かっている時間が長いので。

お兄さまにもそれとなく注意されていたし。

...もちろん、それも悪いのだろうけど...

重過ぎる秘密も...

自分が悪いのだけれど...

★五十二 お兄様には...秘密の通院。

...不眠が続くので、まずはかかりつけの内科に行った。

...心療内科もうたっている先生なのだけど、アットホームな院内はいいのだけど...

「心配事」やストレスの内容は話せない...

プライバシーがもっと守れる診察室にしてほしい...

★五十三 お兄様と...大掃除？

今日、職場で、一足早い大掃除をやった。

寒いし、雨だしで、丁重な私がついていくのがやっとだった...

終わった後のスペースはかなりすっきり...

私の心の中とは対照的...

でも、お兄さまの事は...

★五十四 お兄様と...自慢の白菜(笑)

携帯にお兄さまからメールが！

タイトルは「ヤッター！」...と大きな白菜の写真が。

お兄さまはほとんど顔が写ってないし。

家庭菜園の自慢はいいですけど...

私は白菜よりお兄さまのお顔の方が希望なのに...(笑)

★五十五 お兄様と...白菜のお礼？

白菜の写真、ありがとうございました、とお兄さまにお礼を申し上げたら、

「ごめん、間違えて送っちゃって」
と素っ気ないお返事...

でも、見上げた横顔には、

「白菜の事、ほめてくれなきゃイヤっ！」と書いてあった...

★五十六 お兄さまと...私の病気。

...お兄さまには、病気のことは知られないようにしたい。

でも...どこまで隠し通せるか不安...

でも、その一方で、

少しは心配してほしいようなワガママな気持ちもある...

★五十七 お兄様と...解決。

...不眠気味なのがまったく治ったわけではない。

2週間様子を見ましょうってお医者さんには言われたわけだけど...

まあストレスが原因だとすれば...

それはまったく解決はしていないわけで...

いえ、解決なんてできるわけもない...

お兄さまとのこと...

★五十八 お兄様と...デフレ？

...デフレとか激安が問題とかテレビでもいろいろ言っているけれど...

つらいわ～私も。

周りの先輩達はいろいろ地域に尽くし、私みたいなお金が大変な人もかばってくれるんだけど...

お返しというものができない...

お兄さまにも...

フクザツ。

★五十九 お兄様むけのオシャレ代？

勤労感謝の日...

って、若い頃は周囲のすべての人に感謝しなければと思うくらい、アホアホはOLだった私。

今でも愚かさは変わらないけれど、あの頃よりは責任意識を持ち、顧客にも感謝をし...なのに収入は少なく...

お兄さま向けのオシャレ代、どうしよう...？

★六〇 お兄様と...連休。

今年最後の連休、お兄さまはきっと、クリスマスの準備に忙しいだろう...

ツリーとか、イルミネーションにすごく凝るお宅だそうだから...

お子さん、というより、奥様の趣味らしい...

いや、私もそういうの、好きですけど...

やっぱり似てますねえ(笑)

★六十一 .お兄様と...年末年始

十一月も末になって...日没が早過ぎ。

早く冬至を過ぎてほしい気もするけれど、そうになると暮れも押し迫ってしまうのね...

お兄さまとも会えないし、会社ブログものぞけない年末年始...

でもまた、すぐ「フツーの日々」になってしまうのだけど。

★六十二 お兄様を...想う時間

...この秋までのファッションは八十年代テイストが多いようにテレビで見てたけど...

最近そんな話題も見えないな...

何より、お金にならない残業や出勤が多過ぎ。

お兄さまを思うヒマ...だけは無意識に作ってるんだから不思議だ。

★六十三お兄様と...マグロ？

お寿司のネタの中で、マグロは別に好きではない私。

体にいいから（特に脳？ ボケ防止？）と食べているくらい。

でもお兄さまが好きそうな話題なので、

某有名俳優さんが巨大マグロをゲット！

だけはしっかりメモしましたわ...

★六十四 お兄様と...カニ。

デフレ悪化と言われだして久しく...

お寿司なんて回転のも食べてないわ～

カニが一番好きなんだけどなあ...

お兄さまに「僕とどっちが？」って訊かれても、

ひと呼吸置いてしまおうだろうなんてウソ...

でもないかも...

カニは私に食べられてくれるから...

★六十五 お兄様のことが...好きな理由。

...お兄さまのことが好きな理由は...

わかっていないような、わかっているような。

でも、わかっている分については、今はあまり言語化したくはない
と思う。

私の...生い立ちのようなものにまで、思い立ってしまうから。

まだツライ...

★六十六 お兄様への...逃避？

...どこか世間はすさんでいるかもしれないけれど、

私の、お兄さまへの気持ちはそれとはまったく関係はない。

お金持ちの男性にだまされているとか、

自分より暮らしのいい男性に逃避しているとかではない。

...そのくらいだった方が幸せだったかも、だけど。

★六十七 お兄様の...信用？

...お兄さまの会社は、実は仕事が順調で、かなり忙しいらしい。

「...でも、他の人には秘密にしておいてね」って言われた。

...いろいろやっかみとかもあるらしい。

プラス面の宣伝は、ご自身でホームページやブログでされるとのこと...

もしかして、信用ないのか、私？(笑)

★六十八 お兄様と...金運？

...師走も押し迫り、不況とは言われているけれど、

私の職場もお客さんの注文がポツポツと入っている感じ...

円高ともいうけれど、何とか景気が良くなってくれないかな...

金運を分けてもらうべく、お兄さまのブログをチェックしてみたりする。

★六十九 お兄様と...人生。

最近あんまり偏差値って言葉をマスコミで聞かなくなったような気がする。

私達の世代はそれでいろいろ大変だった気がするんだけど...

お兄さまもそんな感じ。

...秀才も、全て幸せになれるわけでは...

いえ、人生は最後まで闘いなのかも。

いえ、いいことも沢山あるけれど。

★七〇 お兄様と...ブランド品。

...円高になっても...

私の場合、海外に旅行できるわけでもなく、ブランド品を買い込めるわけでもなく...

お兄さまが質実剛健というか、ハート重視の方で本当に良かったわ...

と言いつつ、

私のドケチなオシャレ対策にも限界が...

厳しいですわ...

★七十一 お兄様の...視線？

何かお金に出来るものはないかと家の中を見回すと、

二十代、バブルの頃に買った指輪なんかがでてきた...

雑物もいろいろ。

これも年を重ねるとのことなのだとしみじみ感じる...

一方で、怖い。お兄さまにも...どう見えているのかすごく不安だ。

★七十二お兄さまの...教え。

...夫は、私がアクセサリーを処分する事などは嫌がるのだけど...

「過去」の嫌なモノは手放したいものもあるんだけど...

まあ、お兄さまも夫と同じ見解とは思いますが...

でも「何としても生き抜け」と教えてくれたお兄さまなら、わかってくれると思う。

★七十三 お兄様と...サンタ活動。

...お兄さまは結構淡々と話すのだけれど、

お兄さまの子どもとそのお友達はずいぶんとゼイタクな毎日のようだ。

iPodと...その周辺いろいろ。

アイドルのチェックも怠りなく...サンタさんも大変らしいのだが

...お兄さまは絶対「大変」とは口にしない。

★七十四 お兄様と...イルミネーション

表参道のイルミネーションが十一年ぶりに復活したとか。

「中止」から復活することもあるんだなあ、とテレビで見ただけだったけど、感動。

休むことがあっても、続けるって事も大事だよねえ...

私も頑張ろうと思う...お兄さまの事、以外は、だけど...

★七十五. お兄様と...モヒカンジェット。

お兄さまから、また携帯メールがタイトルは「モヒカンジェット」。

レオナルド・ダビンチがデザインの「飛行機」がモチーフの、

某航空会社の懐かしいマークが！

「わっかんねえだろうなあ〜」って本文は何ですか、お兄さま？

★七十六 お兄様と...飛行機の思い出？

全日空の懐かしいマークの飛行機が復活して、九州の方に就航していることがネットのニュースでわかった。

地方出身の私としては、幼い頃、「東京」に憧れ、飛行機に憧れ、

その象徴がああマークだった...

お兄さまも同じような体験をされたのだろうか。

それで...かな？

★七十七. お兄さまの・・・写メ友？

お兄さまのモヒカンジェット写メはまた間違いだったのだろうと私は思うことにしていたけど...
違ったらしい。

「ああいうの、家族はみんなピンとこないみたいでさ...東京人だから...

だから、同窓の友達とかに送ったんだ...」

...「とか」でも嬉しいです。

私は。

★七十八 お兄さまの・・・お地味なマフラー？

...その日のお兄さまは、コート姿もステキ...でもマフラーがお地味...と思ったら。

「子供さんのプレゼントらしいよ。
バイトして貯めたって。」と知人情報。

学校はバイト禁止なので、親戚のパソコン入力でもらったお小遣いを貯めたそう。

さすがは、この親にしてこの子アリ。

★七十九 お兄さまの・・・好きなところ？

...でも、パソコン入力といっても...おばあちゃんのデジカメ写真の他、財産関係の管理書類もあったらしい...

やっぱりお金持ちの一族なのねえ、おにいさまの奥さんの方も...

でも、そんなことより、お兄さまはやっぱり「いいお父さん」なのよね。

そこが、大好き。

★八〇.お兄さまと...良き家庭人？

「...良き家庭人とか言ってもさあ、タイガー・ウッズみたいなのは
困るよねえ...」

...知人よ、お兄さまと私の前でその話題はちょっと...

って、知らないのだから仕方がないけど...

って、気づいてる？

もう、目が泳いでしまいそう...

お兄さま、助けて...

●上巻あとがき

上巻あとがきに代えて

このたびはこの「ツイ恋」をお読みいただきましてありがとうございました。

もともとは、プロ作家になる夢がかなわず、更には病気までしてしまい、気がつけば人生までややこしくなってしまった元文学少女の私が、「ショートストーリーなら通院しながら、仕事と家事の傍らでもできるのでは」と、ブログで書き始めたものでした。

他の方の、ツイッター小説の持つ緊迫感というか、それゆえの美しさにも憧れ、「ツイッター形式」と銘打ちました。最初は形式だけを借りるつもりだったのが、それではリアリティが出ないのではと思い、ツイッターも始めてしまいました(笑)。

そして最近、「ブログだとまとめて読んでいただく時に、表示が見づらいなあ...」と、何かいい方法がないかと探していた時に、電子書籍、という言葉が氾濫し始めたので...つい、という次第です(笑)

ツイッターは予想以上のブームとなったようですが、アメーバなうの開設や自動転記システムなど、機械オンチの文系アタマの私でも使いやすいシステムのおかげで、私としては、ですが、ブログには自己ベストのアクセスをいただいています。みなさま、本当にありがとうございます。

世の中が便利になったおかげで、たくさんの方に自分の作品を読んでいただけることになり、とても嬉しく思っています。

と、同時に、他の方にもこの便利さを楽しんでいただきたいなあと思ってもいます。

今のところ、これからもこんな感じでブログ・ツイッターなどのネット上で、自分なりの文章を書いていけたらと思っております。よろしくお付き合いくださいませ。

最後に、これまで出会った人たちみんなに、感謝の意を表したいと思います。

特に、私の執筆のために、睡眠不足になってしまった我が夫・羽村ゴン吉に感謝。

そして...お兄さま、こと、某氏 (...達...複数人の意です) にも。「いや、こういうのは好きじゃない。」そんな声も聞こえるような気がするのですが...

それでは中巻以降(中・下とも予価100円)もよろしくお願い致します。

2010/08/07

羽村びおら

(私の主なブログ・サイトは左記の通りです)
ツイ恋ーツイッターと電子書籍でも恋愛小説ブロッ
<http://hamurabiora88.seesaa.net/>

羽村びおら公式サイト
<http://hamurabiora.web.fc2.com/>

羽村びおらのツイッター
<https://twitter.com/hamurabiora>

※本書は、でじたる書房刊の縦書き版（315円）にても電子書籍として刊行しております